

平成28年度 部局自己評価報告書 (24:附属図書館)

Ⅲ 部局別評価指標(第2期中期計画取組分)

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限:(1)~(2)合わせて7,000字以内

(1)全学の第2期中期目標・中期計画への貢献及び部局の第2期中期目標・中期計画の達成に向けた特色ある取組等の成果(㉓)

--

(2)「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策及びミッションの再定義(強み・特色・社会的役割)の実現に向けた取組等の成果(㉔)

1 学術情報整備計画の促進<部局ビジョンから>

従来、図書館商議会で検討してきた本学の学術情報(電子ジャーナル・データベース等)整備計画の検討を継続するとともに、わが国の国公立大学における学術情報の安定的・継続的確保と提供を目指す大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)と連携・協力しつつ、ワールドクラスへの飛躍に相応しい研究環境の将来展望を検討する。(Vision 2:研究関連)

- ・ 学術情報整備に係る資料費の値上がりが見込まれることから、平成26年度のエルゼビア社の他に、平成27年度に学術情報整備検討委員会で大手2社のパッケージ(スプリンガー社・ワイリー社)の見直しを図った上で、出版社と交渉した結果、非常に有利な契約条件(3年間値上げなしと値上げ率の削減)を獲得することができた。

2 機関リポジトリによる教育・研究成果の発信<部局ビジョンから>

東北大学機関リポジトリ(TOUR)の整備・充実を図るとともに、2013年度分から電子的公開が義務づけられた学位論文について網羅的収集を実施する。(Vision 2:研究、Vision 5:社会学連携関連)

- ・ 東北大学機関リポジトリ(TOUR)では、紀要論文、学術論文及び学位論文等の学内の教育・研究成果を電子的に公開している。平成27年度は、約3,424件のコンテンツを公開し、登録総数は約52,676件となった。学術論文とともに、インターネット公開が原則となった学位論文の登録促進のため、関係部署と連携を取りながら登録促進に努めている。
- ・ 平成27年12月に、公表論文のTOUR登録促進とオープンアクセス化の必要性について、農学部・農学研究科教職員研修で説明を行った。平成28年度も同様の取り組みを他部局においても実施する予定である。

3 各図書館での学習環境の整備<部局ビジョンから>

附属図書館本館改修によるラーニング・コモンズ整備(2012~2014年度)、青葉山新キャンパスにおける新図書館の整備(2014年度~)に引き続き、医学分館・北青葉山分館・工学分館についても、

主体的な学びと知的交流に最適な場への整備を図る。(Vision 1 : 教育関連、Vision 6 : キャンパス関連)

- ・ 本館改修により新設したグローバル学習室には、引き続き英語多読リーダーズ等の語学教材・留学情報誌とともに、留学生用図書も配置し、新たに英語以外の多言語リーダーズを整備・配置し、内外の学生がさらにグローバルな修学を図るために最適な場として運用している。
- ・ 平成 27 年 4 月に新設の図書館カフェは、引き続き学生・留学生や教職員の知的交流の場として提供し、さらに有効に活用されている。
- ・ 本館内に、セルフで貸借できる PC ロッカーを設置することで、従来のデスクトップ 75 台に加えて、さらに約 40 台のノート PC の利用を可能とした。平成 27 年度 1 年間の利用件数は、14,515 件、1 日当たり 41 件となっており、設置 PC すべてが連日使用されている。
- ・ 青葉山新キャンパスの図書館（ラーニング・コモンズを含む）が平成 28 年 6 月に竣工し、平成 29 年 4 月のサービス開始に向けて、書架や什器等の調達等とともに運用体制・予算等の運営準備を進めている。
- ・ 平成 21 年度から実施している学生用図書整備事業として、平成 27 年度は約 16,627 冊を整備した。これら新刊の基本的学習図書のほか、英語多読学習授業のためのリーダーズ、院生のための専門書等も整備した。また、毎年恒例の学生選書企画による選定も実施し、学生のニーズに沿った図書を整備している。

4 社会・地域への知の還元<部局ビジョンから>

図書館所蔵資料を最大限に活用した知を還元する活動（展示会・講演会の開催等）を実施するとともに、地域の観光資源となりうる常設的な展示会場の実現を図る。(Vision 5 : 社会学連携関連)

- ・ 2 号館の貴重書庫の全面改修により、引き続き、国宝や漱石文庫等の貴重資料を後世に伝えるために、安全で良好な保存環境維持することができた。また、貴重図書等の調査研究のため、文系大学院生による古典籍コンシェルジュの採用を開始した。
- ・ 平成 27 年 10 月には、狩野文庫の旧所蔵者である狩野亨吉博士の生誕 150 年記念展示「狩野文庫の世界～狩野亨吉と愛蔵書～」を開催した。期間中（10 月 5 日～11 月 3 日）約 700 人の来場者が観覧し、好評を得、開催期間中に同講演会と狩野文庫特別見学ツアーや展示鑑賞会を行い、広く一般市民の方々の参加も得た。
- ・ 平成 27 年 12 月には、齋藤養之助家 史料特別展示「齋藤家の足跡」をエントランスロビー展示コーナーにおいて開催した。東日本大震災により、開催中止を余儀なくされた展示会の再展示となり、これまで広く周知されなかった貴重な資料を公開することとなった。
- ・ 貴重な資料の公開や研究活動へ適切な状態で資料を提供するために、修復が必要な資料について、高額な修復費用を確保するため、朝日新聞文化財団や田嶋記念大学図書館振興財団から外部資金を獲得した。
- ・ 当館所蔵の「漱石文庫」を夏目漱石没後 100 年、生誕 150 年を記念して、平成 28 年度と平成 29 年度に展示会を開催するため、神奈川近代文学館、日本近代文学館、仙台文学館等へ協力要請を行うとともに、準備を進めた。

5 東日本大震災記録の継承<部局ビジョンから>

永く後世に東日本大震災の記録を継承するために、震災ライブラリーによる資料の収集・保存・公開活動を継続する。(Vision 3 : 震災復興、Vision 5 社学連携関連)

- ・ 震災の記録を後世に引き継ぐとともに、震災の経験を学習・研究を通して社会に活かすために、「震災ライブラリー」として収集しており、公開している資料は、現在約5,200冊に達している。このアーカイブ活動は、被災地の大学図書館、県立図書館及び国立国会図書館なども情報交換を行いながら、連携・協力して実施している(図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」の中心的役割を果たしている)。